

「認知症介護者のためのインターネットを用いた自己学習および支援プログラムの開発と有効性の検証」

4. 看護・介護的観点からのプログラム内容の見直しと修正

研究分担者 野崎 和美（国立精神・神経医療研究センター・病院・看護部・認知症看護認定看護師）

研究要旨

本研究では、介護者の孤立を防ぎ、社会資源へのアクセスの促進、介護者のストレスの軽減や燃えつきの予防、メンタルヘルスの向上の実現を目指すことを目的に、認知症介護者のためのインターネットを用いた自己学習および支援プログラムの開発を行う。WHO が作成した iSupport を日本の文化や介護環境等を考慮した上で日本語化し、認知症認定看護師の視点からプログラム内容の見直しと修正を行った後、フォーカスグループでデモにて得た有識者の意見を参考に再度見直し・修正を行った。

A. 研究目的

本研究では、iSupport 日本版を開発するため、日本の文化や介護環境等を考慮した上で、看護・介護的観点からのプログラム内容の見直しと修正を行う。iSupport 日本版により、家族等の認知症介護者の知識と技術の向上を目指すと共に、孤立している家族等が認知症の専門医療機関や相談窓口、介護サービスなどの社会資源へのアクセスを促進することが期待される。また国際比較可能な標準的な知識や技術とその効果を提示することにより、行政及び地域保健における認知症対策にも役立てることができ、有用で良質なエビデンスを創出できる。将来的には、認知症介護者のストレスの軽減や燃えつきの予防、メンタルヘルスの向上の実現を目指す。

平成元年に6月に閣議決定された認知症施策推進大綱では、認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進するという方針の中で、医療・介護の手法の普及開発および、認知症の人の介護者の負担軽減の推進が求められている¹⁾。本研究は認知症患者の次世代型ケアモデルとして、この政策の実現に資するものである。

B. 研究方法

WHO が開発した iSupport を、日本の文化や介護環境等を考慮した上で日本語化し、パイロット版を作成する。認知症の人と家族の会、介護支援者をフォーカスグループとして、デモ試用、その後フォーカスグループ内でディスカッションを行い、より理解しやすい表現や介護現場の現状に合わせた内容になるよう見直し・修正を行う。

（倫理面への配慮）

日本語化や家族会・有識者の意見を反映した内容修正においては、iSupport のオリジナル版において期待される学習内容との相違がないよう十分に研究者間で検討を重ねた。

C. 研究結果

フォーカスグループにおける検討事項反映

① 学習内容やコンテンツへの理解

認知症介護者に対し、認知症への理解、介護の方法や考え方、自分自身をいたわる必要性や他者を巻き込む重要性等については、理解が得られる内容であり、iSupport 日本版における期待される目的に沿っていると評価できる。ただし、フォーカスグループの認知症介護者と介護専門者を比べると介護専門者の方が iSupport 日本版の満足度が高かった。実際に使う介護者の満足度を高める必要が明らかとなった。より理解しやすくするために表現方法やコンテンツの修正は必要であった。

② 具体的な内容への変更

相談するなどの内容に関して、より具体的にどこに相談すればいいのかを介護者は必要としているというニーズから家族会の HP や認知症疾患センターなどのリンクを該当ページに追加した。また、リンク先である当院 NCNP 認知症センター HP の疾患説明をより詳しいものに修正した。

③ 試用者の不快感の軽減

設問に対して、「正しい回答」や○×を表したイラストを使用していた。フォーカスグループの意見から、介護には本人や介護者の人生や価値観など影響するので明確な「答え」のあることは難しく、

慎重に使用したほうがいいのかという点で「正しい回答」から「より良い対応」「あまり適切でない対応」と変更し、○×のイラストは削除とした。

また、各ページにイラストをつけているが、被介護者が高齢者、介護者が若年や中年期を表したイラストが多い、また受講者の好みもあることから、イラストが不要な場合には削除できるよう、イラストあり・なしを選択できるように仕様変更とした。

③ より分かりやすいコンテンツへの変更

アイコンはイラストのみで行っていたが、アイコンの説明や注釈などを入れて理解して使用できるように変更とした。

④ 性的表現の緩和

性への表現を日本文化に合わせて柔らかい表現に変更していたが、さらにやわらかい表現「夫婦関係」と変更した。

D. 考察

認知症介護者のためのインターネットを用いた自己学習および支援プログラムとして iSupport (WHO) を日本文化や介護環境等を考慮した上で日本語化し、看護・介護的視点からプログラム内容の見直しと修正を行った。誰にでもわかりやすい表現を検討して変更したが、フォーカスグループ(認知症家族の会、ケアマネジャー、認知症看護認定看護師)試用後のディスカッションにて、内容に関しては認知症介護者に対し、認知症への理解、介護の方法や考え方、自分自身をいたわる必要性や他者を巻き込む重要性等が理解できるが、表現の方法やより具体性への検討事項があがり、修正を行った。今後 RCT を実施し、iSupport 日本版の有効性を検証する必要がある。

また、日本における認知症に関する社会情勢や法制度は変化の中にあり、今後の情勢に合わせて内容や参照 URL 等の変更が継続して行われる必要があると考える。

E. 結論

WHO が作成した iSupport を日本の文化や介護環境等を考慮した上で日本語化し、看護・介護的視点からプログラム内容の見直しと修正を行ったパイロット版をフォーカスグループで使用し、挙げられた検討事項を反映させた内容へ検討修正を行った。プログラムの有効性に関して今後 RCT によ

る検証が必要である。

参考文献

- 1) 厚生労働省「認知症施策推進大綱」：<https://www.mhlw.go.jp/content/000522832.pdf> : 閲覧 2021.4.15

F. 健康危険情報

総括研究報告書を参照。

G. 研究発表

1. 論文発表

本年度の発表なし。

2. 学会発表

- ① 松井眞琴、田島美幸、山下真吾、菅原典夫、野崎和美、和田歩、藤巻知夏、横井優磨、大町佳永、iSupport 日本版におけるフォーカスグループの実施報告、第20回日本認知療法・認知行動療法学会、2020年11月21日～11月23日
- ② 大町佳永、山下真吾、松井眞琴、野崎和美、和田歩、藤巻知夏、菅原典夫、横井優磨、認知症介護者のためのインターネットを用いた自己学習プログラムiSupport日本版の開発、第39回日本認知症学会学術集会、2020年11月26日～28日
- ③ Yamashita S, Yokoi Y, Sugawara N, Matsui M, Nozaki K, Omachi Y. iSupport, an online training and support program for caregivers of people with dementia: study protocol for a randomized controlled trial in Japan. Virtual International Conference of Alzheimer's Disease International. 10-12 December 2020 (poster).

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
特になし。
2. 実用新案登録
特になし。
3. その他
特になし。